

はじめに

当署では、平成12年から地域と連携した植樹活動に取り組んでおり、取組の過程で占冠中央小学校より森林教室の要望があったことから、平成30年から活動を行っています。全校児童を対象とし、毎年違うプログラムを実施しているため、3年間のアンケート結果から森林環境教育に何が求められているのか、今後の森林教室の展望について考察しました。

取組内容

プログラム内容

令和4年 色探し、モルック作り
令和5年 森のビンゴ、森林と水の紙芝居
令和6年 エゾシカ痕跡調査

【アンケート方法】

児童に記述式アンケートを行い、項目ごとに分類

事前打合せ時の学校側の要望

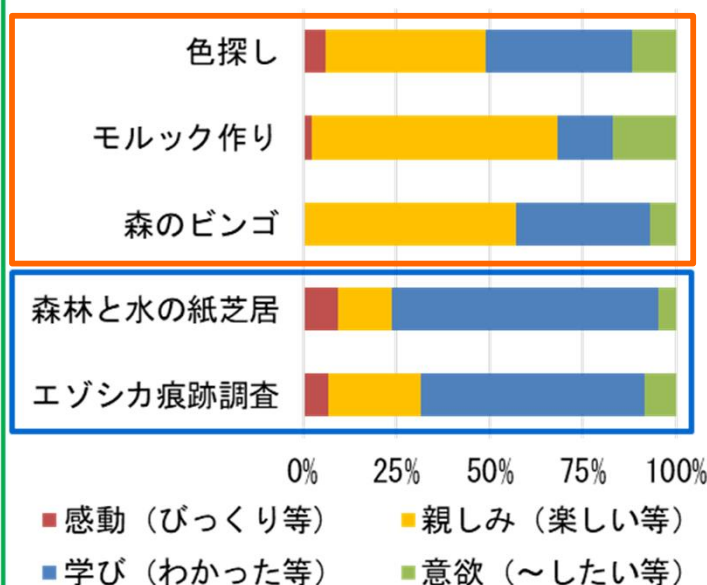
- ・知識からでなく体験を経て自分で考えてほしい。
- ・五感に訴える活動を。
- ・それぞれの感じ方や多様性を理解してほしい。



エゾシカ痕跡調査の様子

アンケート分析

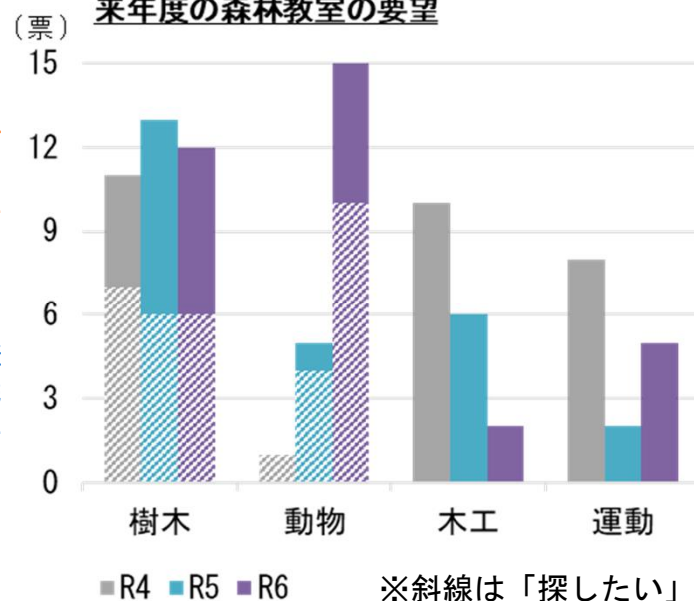
プログラムの感想



活動型

講義型

来年度の森林教室の要望



※斜線は「探したい」

- ・活動型プログラムは【親しみ】が最も多く講義型は【学び】が多い。
- ・色探しと森のビンゴは、活動が学びにもつながっている。
- ・高学年ほど【学び】の感想が多い傾向があった。

- ・樹木の名前を調べる等の樹木関連は一定の人気があり、運動はモルックが大半を占める。
- ・樹木と動物の項目は中でも「探したい」の声が多く、教室や校庭ではできない自主的な活動を好む。
- ・その年の実施プログラムに影響を受けるため、バランスよく分野を選ぶことが必要。

考察・展望

児童が求めること：講義型より活動型プログラムのほうが楽しさや親しみを醸成できる。

普段の教室での授業ではできないような体験を望んでいる。

先生が求めること：児童が求めることはもちろん、さらに自分で考えて学ぶことを要望している。

森林の多様性や考え方の多様性について理解を深めてほしい。

- ①児童が主体となって活動し、②五感を活用して多様性を実感できるプログラム内容で、③地域の特性・魅力を絡め、生活とのつながりや持続可能な社会について考えるきっかけとなる森林教室を今後は企画していきたいと思ひます。